

俳句のまちあらかわ

俳句にふれてみよう

令和5年度夏 あらかわ俳句吟行会 投句募集

吟行テーマ 区内の公園
※映像・写真・思い出等を基に詠むことも可
※夏の季語を用いること

賞・賞品
▶特選(1句)
…Q.U.Oカード3000円分
▶入選(5句)
…Q.U.Oカード1000円分、荒川区俳句グッズ

選者 荒川区俳句連盟会長・佐々木忠利氏ほか

投句方法 はがき・ファクス・荒川区ホームページで、住所・氏名・年齢・電話番号・俳号(ある方のみ)・作品(ふりがな)を記入
※投句数の上限はありません ※未発表の作品に限ります
※応募原稿は返却せず、著作権は荒川区に帰属します
※はがき・ファクスの場合、1枚に記載する作品数の制限はありません

締切り 7月10日(月)

応募 〒116-8501(住所不要) 荒川区役所文化交流推進課文化振興係「あらかわ俳句吟行会」担当
☎(3802)3795 FAX(3802)4769

第28回 あらかわ俳壇 入選作品発表

題 春着、落の臺、鳥帰る、当季雑詠

「第28回あらかわ俳壇」では計1328句の投句がありました。

選者 現代俳句協会副会長・対馬康子氏

小中学生の部(計296句) ※学年は、応募当時

一般の部(計1032句)

入選

特選

入選

特選

外寒し家につくまで走ろうか
(第四峡田小学校5年・長沼来実さん)

しおひがりたからさがしたはるのうみ
(根岸小学校1年・石田和久さん)

冬の小蝶まるで小さな星のよう
(第四峡田小学校5年・ハウイットブローディーさん)

晴天の空見上げれば落の臺
(瑞光小学校5年・とんび油あげさん)

おぼろ月夜空にひびく笑い声
(瑞光小学校4年・平塚望呼さん)

鳥帰る最後の潜水深くして
(倉敷市立東中学校2年・田村豪さん)

選評
冬の間は川面に浮かんでいた水鳥が春になり北へ帰って行く。「潜水深く」と、臨場感ある鳥の描写が句に力を与えており見事です。長い旅が始まる覚悟に対して、作者のエールの思いが伝わります。

珈琲は二時まで蝶は港まで
(目黒区・南方日午さん)

鳥帰る正義の翼見せつけて
(世田谷区・迫久鯨さん)

折鶴に新しき影春ともし
(足立区・木幡忠文さん)

光る道愛妻歩く春着かな
(春日井市・西谷寿さん)

食う幸や星の大地の落の臺
(須崎市・野中泰風さん)

落の臺瞬き忘れぬるやうな
(江戸川区・相場恵理子さん)

選評
瞬きを忘れているのは落の臺でしょう。ユニークな比喩です。まだ寒い大地に顔を出した小さな落の花芽が、春の精に出会い、驚き見入っているのかのよう。落の臺の何とも言えない愛らしさです。

令和5年度 さくら投句会 入選作品発表

「さくら投句会」では計594句の投句がありました。

選者 現代俳句協会副会長・対馬康子氏

入選

特選

学校を統べる桜や風つる
(荒川・田中礼子さん)

満開は既に淋しき桜かな
(荒川・鈴木真理子さん)

雨に訳つけてみるなり夕桜
(東尾久・佐々木章人さん)

尾久の原の子あの子もさくら顔
(高槻市・木の芽さん)

枝垂桜や地球に引っ張られる
(須崎市・野中泰風さん)

桜散る救ひをずっと待つてゐる
(いわき市・榎本佳歩さん)

選評
それぞれの時代で日本の春を象徴してきた桜の花。今年はどういう桜だったでしょう。見事な満開のあと一斉に散る風情はほかないものです。それでも桜の木もそれを眺める人もまた、明日を信じて救いを待っています。

第48回 現代俳句講座

日時 7月9日(日)午後1時30分～4時45分

会場 ゆいの森あらかわゆいの森ホール

対象 区内在住・在勤・在学の方

定員 20人(申込順)

内容 俳句形式のデザイン、「白泉句集」のなりたち

費用 無料 主催 一般社団法人現代俳句協会

締切り 7月4日(火)

申込み 電話・電子メールで、住所・氏名・電話番号・現代俳句協会への所属有無を、文化交流推進課文化振興係☎(3802)3795
✉bunka@city.arakawa.tokyo.jp



問合せ 文化交流推進課文化振興係 ☎(3802)3795

